INTERNATIONAL & INFORMATION STUDIES

学報

国際・情報

Vol.48

新潟国際情報大学

[本校]〒950-2292 新潟市西区みずき野3-1-1
tel. 025-239-3111 fax. 025-239-3690
[新潟中央キャンパス]〒951-8068 新潟市中央区上大川前通7-1169
tel. 025-227-7111 fax. 025-227-7117
http://www.nuis.ac.jp somu@nuis.ac.jp

平成22年9月25日 発行

キャンパスでの生活を大切に



学生部長
情報文化学科・教授
區 建英

学生部を担当するようになって、自分の大学生時代のことをいろいろ思い出しました。今の日本のようにほとんどの受験者が大学に入るのではなく、一部あるいは少数の受験者しか大学に入れない時代でした。その時代の青年は、大学のような高等教育を受け自由な学芸を行い、さまざまな課外活動を自ら企画することができるのを、とても幸せに思い、キャンパスでの学生生活を非常に大切にしていたのです。

皆は少しでも多くの時間キャンパスにいたかったのです。正課以外に図書館などの大学施設を利用し、また、それぞれの愛好や関心によって各種のサークルを結成し、自主的に運営する課外活動に情熱をかけました。中国の改革開放時代が始まった頃で、過去の硬直した時代の雰囲気を吹っ飛ばそうとして、学生たちは小澤征爾さんの指揮をモデルにして愛のハーモニーを合唱し、バイオリンやピアノを熱烈に演奏しながら、社会や政治あるいは学術に関する演説を行っていました。課外活動を通じて多くの友人と知り合い、大学という知的な場で出会った知己も、生涯の貴重な財産となりました。

今の大学では、雰囲気がだいぶ変わっているようです。授業がある時だけ大学に来校し、正課の授業が終わってすぐに帰ったり、アルバイトに行ったりするようなパターンも増えています。しかし、課外活動も大学生活の不可欠な部分です。学生が自主的に何かを企画し組織・運営するのは、何かの技能が鍛えられるばかりでなく、一人の狭い枠を打ち破り、コミュニケーション能力を高め、協調性や能動性を培い、また、互いにアイディアを出し合って創意工夫を行い、自分の可能性を発見し練り上げていくことができます。





課外活動に情熱を

自分の可能性を発見しよう

学生部はこのような素晴らしい課外活動を大いに支援します。同時に、大学生活で悩みを抱えている学生に対しても、大学生の互助を通じて労(ねぎら)るよう試みます。



今年度、スポーツ部・文化部・学術研究部を含めた公認団体と同好会は計44団体で、昨年度の38団体より約16％増え、部員・会員の延べ人数は816人で、昨年度の568人より44％ほど増えました。課外活動の中で学生がさまざまな業績を挙げています。いろいろな大会で上位に入賞したスポーツ部があり、優れた技能が認められて学外のゴルフ場で活躍している学生もいます。また、外国語のスピーチコンテストで優秀賞を得た学生や、国際ボランティア活動やNPO活動で活躍している学生もいます。今年6月、イベントサークルは合唱部、吹奏楽部、軽音楽部との連携で「NUIS Music フェスタ」を開催し、音楽を通して皆のつながりを図り、地域の方々とも交流しました。

学生部はこのような素晴らしい課外活動を大いに支援します。同時に、大学生活で悩みを抱えている学生に対しても、大学生の互助を通じて労(ねぎら)るよう試みます。

学生部はこのような素晴らしい課外活動を大いに支援します。同時に、大学生活で悩みを抱えている学生に対しても、大学生の互助を通じて労(ねぎら)るよう試みます。

CONTENTS

2・3面
課外活動　新たな挑戦
働く進路が見えてきた!
　インターンシップ・学外実習
　実習受け入れ協力企業など一覧

4・5面
全学内の全面禁煙を実施
9月卒業14人が晴れて社会へ
新任教員紹介
私の研究テーマ・お薦めBOOK
「NUIS学園訪問」
　スタッフセミナー

6面
「キャリア支援課」が始動
2年目迎えた就職支援プログラム
湧源・編集後記に代えて

7面
紅翔祭（10／23・24）案内特集

児玉　清氏を招き文化講演会
実行委員長あいさつ　イベント紹介

8面
図書館に「多目的学習室」を新設
本学の施設開放ご案内
卒業生の便り

集い、支え合い新たな挑戦

nuisp

遊び心で実践プログラミング

情報システム学科４年
小柳　昭平

コンピュータ・プログラムを勉強ではなく、遊び心でやる人たちの集まりです。一昨年の秋に活動を開始して、今年の４月には公認団体へと昇格しました。現在は、部員数28名で、毎週火曜日の放課後に活動しています。

主な活動内容は、７月に開催された世界中の大学生が参加して、プログラミング技術の世界一を決定するＡＣＭ国際大学対抗プログラミングコンテストの国内予選に参加しました。この大会へは昨年から２年連続して参加しています。これまでは、国内予選を惜しくも突破できてはいないのですが、来年以降は次ステージのアジア予選に進出したいと思っています。

また、他の活動としては、にいがたデジコングランプリというコンテストのｉＰｈｏｎｅアプリケーション部門へ作品を応募しました。作成したアプリケーションは、佐渡で有名な砂金採りを模擬した体験型ゲームです。ｉＰｈｏｎｅを縦や横に振って砂の中から砂金を見つけ出し、指でそっとすくい上げるゲームです。この作品は、見事入選することができました。

さらに、今年の５月から、地元のクリーニング屋さんと共同でシステム開発を行っています。このシステムは、クリーニング屋のお客さんが回答したアンケート結果を、Ｗｅｂ上で集計、表示し、各店舗から参照できるようにするものです。

このようにｎｕｉｓｐでは、実際にその技術を発揮するための取り組みや環境が整っていて、遊びの中で実践的なプログラミング技術を身に付けることができます。



nuisp

サッカー部

目標を持ち楽しみながら

情報システム学科３年
梨本　一也

私たちは選手が23人、マネジャーが５人で、一人ひとりが目標を持ち楽しみながら日々活動しています。また外部者コーチからも来てもらい、技術の向上や試合に向けてのアドバイスをしていただきながら、日々努力しています。

大きな大会は、年３回開かれています。春、秋に行われる北信越大会では予選リーグ突破、夏に行われる県リーグでは２位以上を目標に一生懸命頑張っています。練習は週２回と少ないですが、選手各自が自主的にトレーニングをして足りない部分を補っています。



サッカー部



NUIS Eco

NUIS Eco

環境問題に学内外で活躍

情報システム学科３年
二瓶　巴

「大学をエコキャンパスにしよう」という目標で活動しています。

活動の中心となるのは本学の環境報告書の作成です。環境報告書は本学の電気・ガス・水道・紙の使用量を近年のデータと比較してまとめたものです。その他の学内活動には、ペットボトルキャップの回収や教科書リサイクルなどがあります。これらの活動は本学の中で環境に対する意識を高めてもらうために実施しています。

また、学外の活動には地域の清掃やエコスタジアム、祭りなどでのゴミ分別ボランティアへの参加があります。ＮＵＩＳＥｃｏは学内にとどまらず学外へ向けた活動も積極的に参加し、地域や他大学とのつながりを持つことでさらに活動の幅を広げています。

また、ＮＵＩＳ Ｅｃｏでもイベントを主催し、イベントのリーダーは学年に関係なく（半ば無理矢理）任されます。しかしメンバーはそんな無茶ぶりをものともせずこなしてしまう優秀な人ばかりで、私は大助かりです。

環境サークルと聞くと固いイメージがあるかもしれませんが、個性豊か過ぎるメンバーに恵まれ、海岸清掃などのイベントではばか騒ぎしながら楽しんで活動しています。「飲み会もエコだ！」という言葉が受け継がれているのが若干心配ですが、30人を超えるマンモスサークルとなった今、サークル存続については心配なさそうです。

メンバーの環境に対する意識はバラバラですが、ＮＵＩＳＥｃｏの活動を通して、将来、環境問題に取り組む人が増えたらと思います。

課外活動

合唱部
まずは歌う楽しさを

情報システム学科3年
集貝　知世

私たちは現在、男子6名、女子6名の12名で週2回活動しています。週に1回は講師の方に来ていただき、技術向上を目指して少ない時間ながらも練習に励んでいます。まだ創部2年目という日が浅い部ではありますが、入学式、卒業式、紅翔祭、また、今年度は初めて吹奏楽部、軽音楽部合同で音楽祭を開催するなど積極的に活動しています。入学式と卒業式には学長も一緒に校歌を歌います。

部員数が少なく、大学から合唱を始めたという人がほとんどという問題も抱えており、試行錯誤の日々です。そんな中でも、個性的なメンバーがそろっていて、練習中は笑顔が絶えません。個人的には部員に「楽しいです」と言ってもらえるのがすごくうれしく感じ、主将をやっていて良かったなと思える瞬間です。

また、今年初の音楽祭を通して、音楽の楽しさ、部員の力を一つにできた気がしています。

今年は合唱コンクールに挑戦しようとしましたが、練習確保が難しく、部員数も足りないために今回は断念しました。しかし、合唱部は始まったばかりで歌うことから何度でも挑戦していけると思っています。

歌うことの楽しさをみなさんに知ってもらいたいです。

インターンシップ
働く進路が見えてきた！

新潟県中小企業家同友会

情報文化学科3年
伊藤　久美



私は新潟県中小企業家同友会で10日間の実習をさせていただきました。最初はとても緊張したけれど、皆さんが気軽に声をかけてくれ、親切に教えてくださったので、緊張も日に日に和らいでいきました。主に前半の5日間は事務局外で、後半は事務局での実習をさせていただき、とても貴重な体験をすることができました。

事務局外での仕事は企業訪問、会議、高校での就職模擬面接官、イベントのお手伝いなどでした。企業訪問では、どの企業も自分たちの仕事にやりがいを感じているということが強く伝わってきました。また、働くこととは日ごろからいろいろな視点から物事を考えることが必要であるということを学んだ1日でした。

面接官としての立場も経験

面接官は本当に貴重な体験でした。これから就職活動を迎えるにあたって、面接官側の立場から見ることができて良かったです。イベントのお手伝いでは、良い社会経験をすることができました。販売では、商品をただ売るのではなく、お客さまに呼びかけることや、一人ひとりのお客さまに合った接客をすることが大事であるということを学ばせていただきました。

事務局での実習は資料作成や電話対応など、主に事務的な作業をさせていただきました。電話は会社を代表する声であって、顔が見えない分、声の調子や話し方などに最善の注意を払わなくてはなりません。今回の実習でそれを学ぶことができました。

今回の実習で、自分のやりたいことが見えてきたような気がします。この貴重な体験を就職活動に生かしていきたいと思います。

（株）新潟東映ホテル

情報システム学科3年
馬場　雄三



8月2日から2週間、新潟東映ホテルにて学外実習をさせていただきました。宴会部門、フロント、レストランでの実習体験でした。

宴会部門では、まず宴会や会議、講演会の会場づくりをしました。特に大規模なパーティー会場づくりと後片付けは本当に忙しかったです。新潟祭りの期間は、実際に宴会場やビアガーデンでサービスに入らせていただきました。フロントでは、コンピュータへの予約入力、チェックインやチェックアウトの登録、お預かりしている荷物を客室にお届けするのにも同行しました。フロントは常に接客している体制なので、姿勢や服装などのマナーが特に重要だと思いました。

姿勢や服装などマナー学ぶ

レストランでは掃除やナプキン折り、洗い物、ご飯盛りなどをやらせていただきました。ナプキンは、2通りの折り方があるのですが、何度も何度もやり直しながら仕上げました。ご飯盛りも和洋中で分量が違い、調節がとても難しかったです。

実習初日に、東映ホテルでのサービスはすべて高級志向でお客さまに提供している、というお話をしていただきました。まさにその通りだと実習を終えて思いました。8月前半の実習ということで、新潟祭りの民謡流しや新潟花火、お盆、EXILEライブなどさまざまなイベントが重なり、非常に忙しい実習となり、より多くの経験ができたと思います。

サービス業が少し気になっていたという漠然とした理由で参加しましたが、実際に多くの現場でやらせていただき、いい実習となりました。

学外実習

受入企業・団体・官庁名

株式会社新潟グランドホテル
株式会社日本旅行 新潟支店
株式会社エフエムラジオ新潟
新潟県中小企業家同友会
株式会社ホテルオークラ新潟
社団法人新潟県経営者協会
株式会社第一印刷所
イワツキ株式会社 新潟工場
株式会社新潟総合テレビ
株式会社ＢＳＮアイネット
株式会社グローバルネットコア
株式会社富士通新潟システムズ
株式会社新潟県農協電算センター
株式会社新潟日報社
株式会社新潟放送
株式会社博進堂
株式会社新潟東映ホテル
セコム上信越株式会社
株式会社NTT東日本-新潟
第四銀行株式会社
北越銀行株式会社
原信ナルスホールディング株式会社
日産プリンス新潟販売株式会社
株式会社ハードオフコーポレーション
新潟商工会議所
新潟県　（順不同）

14人が晴れて社会へ

9月卒業式

本年度の9月卒業式が9月15日、本校大会議室で行われ14人が無事に社会へ巣立っていきました。

今回の卒業生は情報文化学科6人、情報システム学科8人。式典では平山征夫学長が一人ひとりに学位記を授与しました。学長は式辞で、サムエル・ウルマンの「青春とは」という詩を紹介し、どんなときでも夢を持ち続けてほしいと、門出の言葉を贈りました。関根秀樹理事長や越智学部長、小山田、岸野両学科長ら関係教職員も出席し、温かい拍手で前途を祝福しました。

卒業の目標をクリアできた学生たちは、みんなの激励に晴れ晴れとした表情でこたえ、あらためて社会人となる実感をかみしめて、これからの活躍を胸に誓っていました。



一人ひとりを激励し学位記を授与

新任教員紹介

神長　英輔



情報文化学科　准教授

<担当科目>
ロシア語、現代ロシア論、国際研究ゼミナール、卒業論文指導

<専門分野>
歴史学、極東ロシア地域文化研究、現代日本文化研究。具体的には、サハリン・樺太の歴史、北洋漁業と「北洋」概念の歴史、現代日本文化における「ロシア」表象の変遷を研究。

<略歴>
1998年 東京大学教養学部教養学科第二卒業
2001年 日本学術振興会特別研究員（DC、東京大学大学院総合文化研究科）
2004年 日本学術振興会特別研究員（PD、東京大学大学院情報学環）
2006年 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻博士課程修了（博士、学術）

全学内の禁煙を実施!



9月から本学利用の全て外来者も

本学では大学内における禁煙化を進め、昨年９月から建物内を禁煙としましたが、いよいよ敷地内全面禁煙を９月１日から実施し、学内のすべての喫煙スペースは撤去しました。

１年前の建物内禁煙から喫煙コーナーはフリースペースにリニューアルし、今では昼食や休憩、学生同士の打ち合わせ場所として活用されています。

この敷地内全面禁煙は本学を利用する人の健康増進、受動喫煙による被害防止を目的としています。したがって学生、教職員はもちろんのこと、本学にお越しになる皆さまに対しても同様にご理解いただき、ご協力をお願い申し上げます。

私の研究テーマ

“見える化”でソフト品質を向上

情報システム学科・教授　**西山　茂**

私の研究テーマはソフトウェアの品質向上技術です。

パソコンをはじめ家電、自動車、携帯電話（ケータイ）など私たちはコンピュータに囲まれており、コンピュータなしの生活は考えられません。コンピュータはハードウェア（ハード）と、それを思いどおりに機能させるためのソフトウェア（ソフト）からなります。ソフトのおかげで一つのハードを幾とおりにも使うことができます。

例えば、ケータイは電話、メール、インターネット検索、音楽再生などさまざまに使えます。これらの機能はケータイのハードを制御するソフトを必要に応じて取り換えながら実現しています。

ところで、私たちが使う“もの”には品質があります。正しくできている、使い勝手が良い、なか壊れない、見た目が良いなどが一般的な“もの”に対する品質でしょう。ソフトの品質は、“○○の機能（要求）”が正しく実現されているかどうかで表します。正しく実現されていないとき、習慣的に“バグがある”と言います。大きなソフトの“バグ”が社会生活に重大な影響を与えた例は数多くあります。“大きな”とは多くの機能があることで、銀行や証券取引のソフト、航空機やロケットのソフトなどがその代表例です。

ソフトの品質を左右する大きな要因に①要求の伝え方②つくる道具③大きなソフトをつくる場合の作業管理法、などがあります。

その①③はソフトの品質に極めて深刻な影響を与えますが、技術が未成熟です。この2つはいずれも“見える化（多くの人が理解できるようにすること）”が重要です。そこで私は“見える化”の考え方を適用してソフト品質を向上する方法を研究テーマとしています。

お薦めBOOK

本学図書館のWEBサイトに個性あふれる教員たちの紹介文が載っています。アクセスしてみてください。
http://www.nuis.ac.jp/ic/library/book/book.htm

『河童が覗いたインド』

（妹尾 河童著　新潮社　1991年）

本書は著者が、およそ4カ月間、2度にわたりインド各地を巡った際のイラストを含めた手記を、加筆修正し出版したものです。その特色の一つは、著者の滞在した「宿」（ホテル）の部屋についての極めて詳細な鳥瞰図（手書き）が付されていることです。舞台美術家でもある著者の技巧によるものでしょうが、一見していかなる部屋であったかが手に取るように見えてきます。また、宿での出来事についても詳細に記述されています。

宿においては、入浴（身体を洗う）、就寝（心身の休息をとる）、（場合によって）食事、という旅の重要な構成要素が実践されます。また、旅先の国の人との最初の交流の相手が宿の従業員たちであることも多く、一定期間滞在すると、「友人関係」に昇格することもあります。その意味で、旅の善し悪しに関する「印象」は多分に宿に依存します。

いうまでもなく、宿に関する以外の記述も興味深く、かつ、大変楽しい。筆者（熊谷）を、南アジアや東南アジアを中心とする生涯現役（?）バックパッカーと運命づけた本書を推薦します。カシミール地方シュリナガルの「ハウスボート」、泊まってみたいなぁ。

（情報文化学科・准教授　熊谷　卓）

NUIS 学園探訪

「スタッフセミナー」

学外から多士済々の講師 大学の活力を生み出す源に

情報文化学科・佐々木　寛教授

情報文化学科の「スタッフセミナー」が始まってから8年たちました。主に情報文化学科の教員が教育、研究のため定期的に始めた、互いに高め合うための勉強会で、全学の教職員や学生はもちろん、広く学外の一般の市民にも公開されてきました。現在、その中心になっているのが佐々木寛教授です。

2002年から初まって今年7月までで計32回になりました（表参照）。新任教員の研究紹介の場であったり、海外研修に派遣された教員の研究報告の場でもあったりしたのですが、次第に学外から招いた講師も多くなりました。その顔触れは多士済々、専門分野も多岐にわたっています。

〈多彩な講師を呼んでいますね〉

講師選びには本学教員の幅広い人脈がフルに生かされています。世界レベルの講師もやってきます。ですから、参加者は、新潟に居ながら学問的に最先端の話も聞けます。最近では今年6月にお招きしたオーストラリア国立大のテッサ・モーリス＝スズキさん。日本研究では最も有名な研究者の一人です。テーマも「韓国併合から100年」というタイムリーなものでした。

また、タイのチェンマイ大政治学科教授のタネート・チャルンムアンさん「現代タイ政治－北タイの視点から」（09年5月）、スペイン・バルセロナ自治大の平和文化研究所長でアムネスティー・インタナショナル・スペイン代表のマリア・カバナダスさん「平和学の最前線」（07年5月）など。いずれも来日のチャンスを生かして新潟まで足を延ばしていただきました。



6月26日に開催された公開スタッフセミナー。マイクを持っているのは、約200名の聴衆の前で話す講師のテッサ・モーリス=スズキさん

〈セミナーの目的、成果などコンセプトは〉

大学の活力は、まず教員が良い研究を活発にしていることから生まれます。研究の活力は、やがて授業や教育にも波及し、次第に大学全体の魅力となっていきます。スタッフセミナーは、その大学の活力の源を、まさに教員スタッフが相互に研さんすることによって生み出そうとする試みです。

政治理論、平和研究が専門の佐々木教授は一昨年、客員研究員として米カリフォルニア大学バークレー校に滞在し、その大学の規模とエネルギーと躍動感に圧倒されました。毎日無数に開かれている研究会、講演会、コンサート。そのほとんどが一般市民に公開され、地域とともに新しい文化的・社会的価値を創造している。そんな理想的な大学街の姿を目の当たりにして、本学もそれに大きく学ぶことができると考えた、とのことです。

〈これは大学の"売り"になる〉

このセミナーはもっと多くの学生や市民の皆さんに聞いてもらわないと、本当にもったいないと思います。講義の内容は大学のホームページなどで公開されていますが、セミナーの内容も、もっと新聞などマスコミや新潟市などとも協力して広報されるべきかもしれません。セミナーをきっけに、学内外で良い化学反応が連鎖的に起きて、大学の質的な向上、地域とのより開かれた交流が生まれ、広がるのではないでしょうか。これからはベンチャー企業、経営や情報システム関係の講師なども招き、全学部レベルのセミナーに発展できればいいとも思っています。

〈本学の学生もぜひ参加を〉

ときには派遣留学や夏季セミナーを体験した本学の学生が、ロシア語や中国語で質問するようなこともあり、心強く思っています。ともかく学生にはもっと大いに参加して話を聞いてほしい。リアル、かつ最前線の話が聞けて、刺激を受けるチャンスです。また、普段のイメージとはちょっと違った「研究者」としての先生の横顔も見ることができると思います。

もっと地域に開かれたものに

情報文化学科スタッフセミナー過去開催分

㉜安藤潤（NUIS）「夫婦間家事分担の行動経済学:夫のジェンダー・ディスプレイに関する日米独比較研究」（2010年7月20日）
㉛姜英之（東アジア総合研究所理事長）「北朝鮮・金正日体制をどう見るか」（2010年7月6日）
㉚テッサ・モーリス＝スズキ（オーストラリア国立大学教授）「韓国併合から100年―植民地主義と国家主義をこえる道を探る」（2010年6月26日）
㉙張昭軍（北京師範大学歴史学院教授）「中国の『三農問題』と貧富格差の克服」（2010年4月20日）
㉘金秀妍（韓国・亜細亜聯合神学大学校専任講師）「韓国社会とキリスト教～現状と展望～」（2009年7月14日）
㉗タネート・チャルンムアン（チェンマイ大学社会科学部政治学科教授）「現代タイ政治―北タイの視点から―」（2009年5月22日）
㉖川田悦子（著述家、元薬害HIV訴訟原告、元衆議院議員）「いのちみつめて　～なぜ公害・薬害は繰り返されるのか～」（2009年2月5日）
㉕佐々木寛（NUIS）「日本における原子力レジームの形成」（2008年7月16日）
㉔宮下豊（NUIS国際交流インストラクター事業研究推進員）「再考される政治的リアリズム―近年のモーゲンソー研究とその課題」（2008年7月2日）
㉓谷口侑（UPF〈国際フランス語記者連合〉国際委員）「68年5月革命の死角は何だったのか?―ポスト・コロニアル時代のアフリカを見通す視点の欠如」（2008年6月17日）
㉒區建英（NUIS）「チベット問題検証」（2008年6月4日）
㉑林暁光（中国中央党校の教授、中国社会科学院大学院教授）「日中関係の問題および改善の前途」（2007年12月12日）
⑳聞黎明（中国社会科学院近代史研究所研究員、現代政治史研究室主任）「日本軍の空爆と西南連合大学の戦時生活」（2007年10月3日）
⑲私市正年（上智大学教授、日本中東学会会長）「ポスト・イスラーム主義とグローバル・テロリズム」（2007年6月27日）
⑱マリア・カナダス（スペインバルセロナ自治大学平和文化研究所長,アムネスティ・インターナショナル・スペイン元代表）「平和学の最前線―人権問題と平和」（2007年5月23日）
⑰梅雪芹（北京師範大学歴史学院教授）「中国の環境政策:形成過程と特徴および評価」（2007年1月17日）
⑯杉田敦（法政大学法学部教授）「国家論再考」（2006年11月28日）
⑮後藤武秀（東洋大学アジア文化研究所・同大法学部）「台湾社会の基礎構造としての祭祀公業とその現代的変容」「学術フロンティアの研究プロジェクト紹介」（2005年12月14日）
⑭針生一郎（文芸・美術評論家）「日本の戦後と現在から」（2005年12月6日）
⑬原口武彦（NUIS）「三つの発見:経済学・人類学・アフリカ」（2005年1月26日）
⑫Valery Dikarev（ウラジオストック極東大学副学長）「大学の国際交流・ウラジオストック極東大学の経験」（2004年12月22日）
⑪スタッフ・セミナー共催公開講義「国際研究特論B」越智敏夫（NUIS）担当　William Marotti (University of California Santa Cruz)"September 11th: between experience and event"（2004年12月16日）
⑩「消せない記憶」:日本軍「慰安婦」被害女性を招いて:12・4全国同時証言集会との共催
朴玉仙（韓国）:証言　佐々木寛（NUIS）:ビデオ解説「女性国際戦犯法廷の記録」　広瀬貞三（NUIS）:講演「日本軍慰安婦問題の今日的意味」（2004年12月4日）
⑨佐々木寛（NUIS）「危機から〈共生〉へ:『東アジア』とは何か」（2004年7月7日）
⑧羅仁淑（国士舘大学）「金大中政権の社会保障改革:『生産的福祉をどう解釈すべきか』」（2004年6月28日）
⑦楊共楽（北京師範大学）「古代中国とローマの交流」（2004年5月12日）
⑥全美順（慶熙大学）「韓国文化の項目選定と教授法」越智敏夫（NUIS）「政治理論の社会的機能:『帝国』の正統化について」（2003年11月26日）
⑤小宮山智志（NUIS）「努力観・能力観が不平等認知に与える影響の解明」（2003年7月23日）
④澤口晋一（NUIS）「北緯80度の島スピッツベルゲンというところ:世界最北のコミュニティーと自然」（2003年6月4日）
③長坂格（NUIS）「農村―都市関係の現在:フィリピンの事例から」（2003年2月5日）
②Dave Jeffrey（NUIS）"Opinions on the Social and Cultural Impact of English as an International Language"
①高橋正樹（NUIS）「グローバリゼーションにおける国民国家の変容」（2002年10月30日）

9月から「就職キャリア支援室」新設

本校2階管理研究棟に「就職キャリア支援室」が9月1日から新設されました。1階事務局内で学生への就職支援に努めてきた就職課が、ネーミングも一新し「キャリア支援課」に生まれ変わりました。雇用状況の厳しい中、より多くの学生に就職に関する情報提供や企業求人情報の発信などを行い、一人ひとりの就職相談に今まで以上の支援が可能に。採用試験対策や悩みなど学生同士が互いに励まし、協力できるオープンスペースも確保しました。

模擬面接の講座用ブースも



「就職キャリア支援室」では、相談カウンター、パソコン検索コーナー、資料コーナー、学習・閲覧テーブル席があります。また模擬面接講座用のブースも設け、多用途に対応可能な支援室になっています。

相談カウンターでは、担当職員が個々の就職活動の相談を受けアドバイスを行います。パソコン検索コーナーでは、学生が求人情報や企業情報などネットワークを通して幅広い就職情報が検索できます。学習・閲覧テーブル席は2人対面型を基本に自由な組合せができ、グループワークなどさまざまなケースに対応が可能。各種資料の閲覧も自由にでき、個人のキャリア形成に役立てることができます。

厳しい"就活"を積極サポート

4つのストーリーで「eラーニング」

2年目を迎えた就職支援プログラム

卒業と同時に学生から社会人へ人生の第一歩を踏み出すことができるよう、就職に対する不安の解消を図り、企業が求める「社会適応力」を身に付けた人材を育成することを目的とした本学の「eラーニングを活用した総合的学生就職支援プログラム」が、文部科学省の大学教育・学生支援推進事業に採択され、今年で2年目を迎えました。

昨年度は、企業から協力いただいたアンケート調査を基に、新入社員に求めるスキルとして多かった「倫理・マナー」と、離職の原因として挙げられる「対人コミュニケーション」の講座を行いました。受講した学生（卒業生）からは、入社前に基本的なことが確認できて良かったなどと好評で、入社前の不安を解消することができました。

今年度は講座に加えて、産学が連携し開発した「eラーニング」を本格的に始動していきます。この「eラーニング」は4つのコンテンツをストーリー仕立てにして作成しています。

まずは、「前向きな姿勢が成長への第一歩～主役はあなたです！」。失敗を恐れず、物事を前向きにとらえて行動することの大切さに気づき、自分が立てた目標は自分で達成していく、という意識を持つことの大切さを学びます。

2つ目は、「成果を生み出すための人脈術！」。お互い理解し合うためのコミュニケーションの大切さに気づき、相手と信頼関係を築いていく大切さを学びます。

3つ目は、「ダンドリ上手はシゴト上手！」。時間を効率的に使うこと、事前準備の大切さに気付き、目標を達成するには振り返って改善をしていくことが必要であることを学びます。

4つ目は、「考えるクセをつけて価値を生み出そう！」。物事の本質を見抜いていく探究心を持つことの大切さに気づき、考えるクセをつけて、課題に取り組む姿勢を学びます。

また、企業社員が学習アドバイザーとなり、ケーススタディーを入れながら目的意識やスキルの生かし方などをアドバイスします。学生には「eラーニング」と「講座」を活用し社会に出る準備を行い、不安を無くし期待を持って入社できるよう願っています。この「支援プログラム」につながる就職活動支援の授業や、ガイダンスの充実をはかり、4年間で社会に役立つ専門的知識を身に付けた優位な人材を育成していきます。

湧源（ゆうげん）

編集後記に代えて

広報委員長　桑原　悟

「椿三十郎」という傑作映画がある。幕藩体制のころ、藩の汚職と闘おうとする若侍たちの本当の悪人と思慮深い人物（城代家老）とを見抜けない若侍たちの危うさを見かねた浪人・椿三十郎が彼らに助力し、汚職一派を排除するという筋の娯楽映画である。

この映画、実は"人を見る目"も描いている。三十郎の行動を信じる若侍、信じられない若侍。事が解決した祝いの席で、三十郎が藩に留まるような人間でないことを承知している城代家老…。ストーリーを思い起こすと、折の中でも三十郎に"人を見る目"が描かれている。

人間は、集団で生きて行かざるを得ない。組織の形成や他人との役割分担は必須である。そして、組織のリーダーや役割を任せた人物の行動は、メンバーの死活問題にもつながる。つまり"人を見る目"は自分が"より良く生きるための力"であるといっても良い。

そんな大事な力ではあるが、生まれ持っているわけでもなし、ただ日々を過ごして身に付くものでもない。そこそこの注意深さで状況と他人の行動を判断し、記憶に留めることが必要であろう。

世の中は不確実性が増大し、あちこちに破綻（はたん）も見え始めている。こんな時代では"人を見る目"がより良い未来への重要な鍵の一つ。若い人たちには特に重要である。過不足の無い注意深さをもって齢を重ねてもらいたいものである。そうできなかった世代の反省も込めて、そう願う次第である。

今年のテーマは「粋」

紅翔祭

10/23(土)・24(日)

伝統を守り新しい色で盛り上げ

紅翔祭実行委員長
情報文化学科3年
鎌田 有紀子

今年で17回目となります紅翔祭のテーマは「粋」となりました。このテーマには学生生活と学園祭は切っても切り離せないものがあり、学園祭を行うにあたって学生生活を満喫していることを実感してもらう、というところに「粋」を見出してほしいと思ったからです。

今年度の紅翔祭は10月23日、24日の土曜、日曜に予定されています。それに向け私たち紅翔祭実行委員は伝統を守りつつも、盛り上げるために我々の新しい色を出すために日々準備を進めております。また、模擬店やイベントもさまざまな種類のものがあり、皆さまが楽しめるような紅翔祭になっております。どの団体も紅翔祭に向けて一致団結しておりますので、ぜひお越しください。

紅翔祭は学生だけのものではなく、地域の皆さまとの交流を深めるための大きなきっかけとなります。例えば、当日参加可能のイベントも多数用意しております。日ごろの成果を見るだけではなく、この機会に多くの方々との触れ合いを深めるためにも、ぜひお越しください。

主なイベント

23日

- ●民族衣装ファッションショー、中国語での演劇
- ●ダンス部によるDancer's Party
- ●吹奏楽コンサート

24日

- ●合唱部発表会
- ●アカペラ発表会
- ●仮装大賞

両日

- ●軽音部ライブ
- ●カナダ夏期セミナー報告　ゼミ発表
- ●名刺の制作や販売
- ●プログラミング系サークルnuispの活動報告
- ●美術同好会など展示会
- ●紅翔祭茶会
- ●模擬店多数出展

来場者参加イベント

どのイベントも豪華賞品多数用意しております。奮ってご参加ください!

23日

ワクワク??ドキドキ!?空き缶タワー!!
15:00～15:30 屋外特設ステージ
空き缶を一定以上の高さに積み上げ、手を離して5秒たっても倒れなかったら賞品をプレゼント。

g⇔kg ～グラムからキロへ～
15:30～16:00 屋外特設ステージ
用意された物を組み合わせ、クジで決められた重さにする。3分以内に2回挑戦、指定された重さにできたら賞品をプレゼント。

23日・24日

お宝探し 両日10:00～16:00
学内に隠された「あたり」と書かれた紙入りの封筒を見つけた人は本部で賞品をプレゼント。

24日

ビンゴ大会 15:00～16:00 240教室
当日15:00～16:00に本部にて、ビンゴカードを1人1枚配布。

※詳細は紅翔祭実行委員会本部にて、当日ご確認ください。

文化講演会

演題 「心に華のある人生を!」

講師 俳優・ナレーター・司会者・作家 **児玉 清氏**



〈プロフィール〉
1933(昭和8)年12月26日、東京都北区生まれ。学習院大卒。東宝映画第13期ニューフェース。代表映画作品「黒い画集・ある遭難」「戦場に流れる歌」「HERO」など。クイズ番組「パネルクイズアタック25」の司会を30年。芸能界きっての読書家として知られ、NHKの書評番組「週間ブックレビュー」などの進行役を務める。著書は「寝ても覚めても本の虫」「負けるのは美しく」「たったひとつの贈りもの」など。

開催日時 10月24日(日) 13:30～15:00 (開場13:00)

会　場 新潟国際情報大学 本校体育館

定　員 600人 ※受付順に入場整理券を郵送いたします。※なお、先着定員となりしだい締め切らせていただきます。

申込方法 はがきに「児玉清講演会 聴講申込」と、郵便番号・住所・氏名・電話番号・年齢・職業・希望人数(上限5名)をご記入(無料)

宛　先 〒950-2292　新潟市西区みずき野3-1-1
「新潟国際情報大学 文化講演会係」宛

★この講演会は、父母会およびみずき会(同窓会)の後援事業です。
★個人情報については、適切に管理し、講座および案内以外の目的では使用しません。

お笑いLIVE開催



開催日時 10月23日(土) 開場13:00 開演13:30～

会場 新潟国際情報大学 本校 体育館

入場チケットの配布方法 当日本校体育館前にて10時より400枚(お一人1枚)配布致します。

みずき会・今年もやります

10/23(土)

本学みずき会(同窓会)恒例の「みずき野クリーンアップ大作戦」「就活喫茶」を10月23日に開催します。

「クリーンアップ大作戦」は、学生時代にお世話になった恩返しに町内清掃をします。

「就活喫茶」は、就職や学生生活などを気楽にお茶を飲みながら座談。在学生の不安や悩み解消に役立ちたいと思っています。

クリーンアップ大作戦

- ・集合／10:30(受付・学生ホール)
- ・作業終了予定／11:30
- ・清掃場所／大学～みずき野ニュータウン～赤塚駅
- ・参加申し込み／当日参加も可能。
  準備の都合上、事前に下記アドレスに連絡を。
  dousou@nuis.ac.jp

[その他] ※雨天中止としますが要集合　※ゴミ袋および軍手は用意
※参加者全員に昼食券・記念品を用意しております。

就活喫茶〈OB・OGによる就職、学生生活相談会〉

・会場／223教室　・時間／13:00～15:00

卒業生の便り

情報文化学科2005年度卒業　**高橋　愛**

正確、丁寧、迅速を心がけて

私は燕市を中心に営業をしている、協栄信用組合の経営大学前支店に勤務し、貯金業務を担当しています。お客さまの大事な財産をお預かりする仕事です。そのため常に仕事は正確さ、丁寧さ、迅速さが求められます。

毎日が緊張の連続ですが、その一方でとてもやりがいを感じています。信用組合の特長や良さは地域に密着していること、お客さまとの距離が近いということだと思っています。地域の皆さんから愛される、頼りにされる金融機関であることが大切だと思います。そのためには勤務する私自身もそのような人柄にならなければいけません。お客さまとの会話の中からお客さまの求めることを理解し、対応できる、また親しみを感じていただける、そのような職員になることが目標です。まだまだ勉強が足りませんが、持ち前の明るさと前向きさで頑張っていきたいと思います。

また、私は大学の同窓会の役員として活動しています。そこでは第1回卒業生から第13回卒業生までの役員で、年に何度か集まり活動をしています。同窓会の一番大きな仕事は毎年6月にある総会・懇親会で、卒業生全員が主役で年に一度集まり、思い出話や近況報告など仲間たちから楽しい時間と刺激をもらえる日です。どうか卒業された皆さん一度参加してみてください。とても温かい気持ちなりますよ。年に一度学生時代に戻ってみるのも良いのではないでしょうか。卒業しても大学にかかわることができて、とてもうれしく思います。

地域密着の金融機関で大切な財産をお預かり



同窓会の役員でも活躍

仕事は毎年6

図書館に新しい知的空間

9月22日オープン



多目的学習室
Learning Commons

PCなど完備

ゆっくりとグループで

図書館に新しい教育・学習支援空間(Learning Commons)を新設する改装工事が順調に進み、9月22日に完成オープンしました。

新しい多目的学習室は、図書や雑誌など紙媒体の資料と、電子ジャーナルやデータベースなどの電子資料の、双方を有機的に活用するためＩＣＴ環境を整えました。自主・自立的な学習を支援する空間として、長時間滞在できるように居住性を高めました。

パソコン18台を常設し、グループで利用しやすい可動式机やホワイトボード、プロジェクターなどを設置し、ゼミ発表の準備、グループ討議、友人との語らい、サークル活動などに利用できます。

場所は、図書館の一番奥の旧「語学自習室」と「情報発信室」を統合した空間です。この学習室では、議論しながら授業の準備をしたり、友人同士でインターネットを見ながらおしゃべりしたり、一人で読書したり、多様なソフトウェアを活用してプレゼンテーションの準備をしたり、さまざまな利用方法があります。

ふらっと寄って好きなだけ過ごしてもらう、というのがこの学習室設置の目的です。図書館に足を運ぶ機会が増えることで、知的好奇心や学習意欲が高まり、コミュニケーション能力や協働する力を育成することができます。図書館を学習の場としてだけではなく、リフレッシュできる生活の場の一つとしても活用してください。

施設開放

学外一般の方もご利用を

本学では次の施設を学外一般利用者にも開放しています。どうぞ気軽にご利用ください。

本校図書館

〈利用資格〉新潟県内在住で高校生以上の方。住所氏名を確認できるもの（運転免許証等、高校生は生徒手帳）をお持ちください。利用証を発行(3年間有効、更新可)。初回のみ登録料として500円いただきます。

〈開館時間〉①開講中　平日は午前９時～午後８時、土曜日は午後５時まで。②休講中(2/1～3/14)　平日は午前9時～午後6時、土曜日は午後5時まで。③休業中(8/1～9/20、12/21～1/7、3/15～4/5)平日は午前９時～午後６時、土曜日は休館。

〈休館日〉日曜、祝日、年末年始(12/26～1/4)、開学記念日(6/8)、入学式、卒業式、学園祭。

〈資料の貸出〉資料と利用証をカウンターにお出しください。1人2冊まで、15日間借りられます。(卒業生は1人5冊まで)　本校の資料の他に新潟中央キャンパス情報・図書室所蔵図書も貸し出しができます。取り寄せ日数は休館日を除いて3日かかります。

〈資料の返却〉開館時間内は、カウンターへ。閉館後はブックポストへ。

〈連絡先〉〒950-2292 新潟市西区みずき野3-1-1
Tel(直通)　025-239-3760　Fax：025-264-3001
携帯サイトhttp://osirabe.net/opac.nuis/

新潟中央キャンパス情報・図書室

本校図書館とほぼ同じ条件で学外の方へ開放しています。

〈開館時間〉平日は午前9時～午後8時30分、土曜日は午前9時～午後5時。

〈休館日〉日曜、祝日、開学記念日、年末年始。

〈連絡先〉〒951-8068　新潟市中央区上大川前通7番町1169
Tel(代表)　025-227-7111　FAX：025-227-7117
(本校と新潟中央キャンパスで借りた資料は、双方いずれにも返却することができます)

体育館（Wトレーニング室）

体育館の窓口で施設利用の申し込みをしてご利用ください。

〈利用料〉年間1,500円(卒業生：700円)
半年間1,000円(卒業生：500円)



〈利用時間〉平日は午前9時～午後9時、土曜日は正午～午後6時。授業で施設を使用している場合は利用できません。

国際交流センター

国際交流センターの受付で記名。以下のものが無料で利用できます。
配架図書の閲覧(貸し出しはしていません)
言語対応ＰＣの利用(ロシア、中国、韓国語に対応)

〈利用時間〉平日の午前10時30～午後5時。
セミナー室、ミーティングルームの貸し出しは行っていません。施設利用に際しては注意事項の厳守をお願いします。

〈連絡先〉〒950-2292 新潟市西区みずき野3-1-1
Tel(代表)　025-239-3111　Fax：025-239-3690